

普門寺だより

相模原市緑区中沢二〇〇 第三十八号

電話 〇四二・七八二・二一〇〇
ファックス 〇四二・八五一・二二三九

新年明けましておめでとうございます

檀信徒の皆さまにおかれましては、益々ご健勝にて平成二十八年の新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年の晋山式に際しましては、ご繁忙の中にもかかわらず多くの檀信徒の皆さまがご参集下さいました。誠にありがとうございました。また、出欠にかかわらず、ご丁寧なる祝賀のお志を頂きまして、心より御礼申し上げます。

当日は晴天に恵まれた小春日和の中、紅高尾山薬王院 御貫首 大山隆玄大僧正はじめ、真言宗智山派神奈川教区教区長、高尾山法類寺院諸大徳の皆様ほか、多くの法縁ある御住職様方にご臨席賜り、厳粛かつ盛大に『晋山奉告法要』を勤修することができました。

こうして、多くの檀信徒の皆さまにご出席いただけましたこと、ご丁寧なるお志を頂きましたことは、この度、長老職に就かれまして、高木秀孝和尚、寺庭 マサ子様が、長きに渡り昼夜を分かつた、身を粉にして普門寺の法灯護持と寺門興隆の一念を貫かれたこと、ご本尊さまを介しまして、檀信徒の心の支えとなってきたことに尽きると存じます。

住職とは、読んで字のごとく、「寺に住んでいる存在」それ自体が、檀信徒の心の安らぎにつながらなければなりません。昨年より、長老は施設療養に努めておりますが、その渦中で、改めてその存在の大きさを感しております。

今すぐには、到底叶いませんが、月日を重ねることで、自然とそのような存在になれるよう、日々勤めてまいります。天平年間に開山されてより現在に至るまで、一二〇〇有余年、歴代の御住職により守られ続けてきた普門寺の法灯を継承させていただいたことは、身に余る光栄でございます。

この上は、一意専心して、法灯護持と寺門興隆に勤め、今日まで、ご縁を結び、ご指導、ご協力くださいました皆様方へのご恩を少しでもお返しできればと、改めて、御本尊様のご宝前にお誓い申し上げる次第です。

浅学菲才の身であることは重々承知しております。今後とも、ご厚情をお寄せ頂き、一層のご協力を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、下記に法要中に皆さまの前でお誓い申し上げます「伝燈奉告文」を掲載させていただきます。ご一読いただきたく存じます。



晋山記念「山号額」開眼式



伝燈奉告文

敬つて真言教主大日如来 両部界会諸尊聖衆 並びに当山鎮守飯縄大権現 殊には本尊聖者大日大聖不動明王 大慈大悲観世音菩薩 別しては宗祖弘法大師をはじめ開山行基菩薩 歴代先師諸大阿闍利耶に白して言さく

其れ以んみるに金剛山観音院普門寺は 奈良時代は天平年間 聖武天皇の御世 行基菩薩により開山されたる古刹なり 爾来 時を経ること幾星霜 慶安元年 徳川幕府より御朱印を賜る 元禄十一年法印頼真上人中興となし 同年 高尾山薬王院の末寺に編入されたり

寺歴によれば 往時の山容は 大悲山慈眼寺 東福寺 智恩寺の三ヶ寺を末寺となし 背後の山上には 武田信玄公が信州飯縄山より持ち来たりし尊像を祀る飯縄権現社 更には三島社と豪壮な堂社伽藍を構え 靈験赫々たる真言宗の祈願道場として隆盛を極めたと伝えられる

さりながら 無常が世の摂理なれば 順風満帆の久しきことなし 明治新政府の神仏分離令 昭和の大戦後の諸策のもとで 他山とたがわす その山容基盤は脆弱となれり

戦後 清貧な時代より高度経済成長期に移行した昭和五十四年 秀孝師が第三十四世住職に晋山するや 寺門興隆に一意専心し 本堂 観音堂 飯縄権現社他 諸堂伽藍の修復に邁進せり この間 寺庭マサ子婦人の強い支えを得て 墓地造成を成し遂げ 檀徒の拡充にも意をそそぎ 更には平成十八年 檀信徒の浄財を基に 仁王門の再建 境内整備事業を完遂す 以つて現在の静謐な輪喚の美を見るに至れり

当山開創より一千二百有余年 法燈愈々輝きを増し 靈驗日々に新たなり 爰に末資の沙門泰順 第三十四世秀孝 長老の高樓に就くに伴い 普門寺第三十五世の法燈を継ぐことになり もとより浅学菲才の身なれば 伝統の重責 身の震える思いなり 然れど 内に碩徳の法縁 外に十方檀信徒の信助あるを以て 若輩の微力を大業成就せんために尽くさんと衷心より誓う者なり

仰ぎ冀わくは本尊聖者大日大聖不動明王をはじめ諸仏諸菩薩ならびに諸天神明等 末資が誓約を哀愍納受せられて無二の照鑑を垂れ給い 上求菩提下化衆生の善願を成就せしめ給わんことを

重ねて乞う 日月清明 風雨順時 一天泰平 四海安穩

万国和平 万民豊楽 密教久住 人法興隆
除災招福 如意円満 乃至法界 平等利益

維時平成二十七年十月十五日

金剛山普門寺第三十五世泰順 敬白

【行事予定】

* 一月十四日 午後二時
初飯縄祭 飯縄権現堂にて
ご本尊様は秘仏とされてはいますが、当日の法要の間のみお姿を拝むことができます。

* 二月十五日
涅槃会〜お釈迦さまのご命日

観音堂にて涅槃図公開(二月十一日〜十五日)をいたします。

* 三月十七日〜二十三日 春彼岸

* 四月八日 午前十時〜午後四時まで

花祭り〜お釈迦さまの誕生祭

当日は観音堂にお釈迦さまの誕生佛をお祀りし、甘茶をかけてお祝いいたします(甘茶の接待あり)

* 四月十四日 午後二時

飯縄権現例大祭 観音堂にて

大勢の僧侶により、世界平和、仏法興隆、檀徒安全、また、皆さまの所願成就をお祈りいたします。詳細は三月上旬にご案内いたします。

* 四月二十九日 午後二時

観音堂お籠り

一年間平穏に過ごせたことを観音さまに感謝する日です。

* 七月一三日〜一六日 七月盆

* 八月十三日 午前十時

新盆供養・総回向法要 本堂にて

今年新盆にあたる精霊はじめ、皆さまのご先祖さま、有縁無縁すべての諸精霊をご供養する法要です。

また、各家の先祖供養の御塔婆(五千円供養料含)を受け付けております。ご希望の方は寺へお申し付けください。

* 八月一三日〜一六日 八月盆

* 九月二十日〜二十六日 秋彼岸

* 十月下旬

・ 大本山高尾山薬王院参拝

普門寺ゆかりの寺、高尾山薬王院に参拝します。

◇お知らせ◇

* 葬儀について *

葬儀につきましましては、お亡くなりになりましたらお寺へご連絡ください。日時はお寺の予定法事などと重ならないようご協力お願いします。解らないことなどありましたら、あわてずにご相談してください。

* 付届について *

年間の付届(ご本尊様へのお布施)は、熨斗袋などへ入れ
施主名・住所を必ずお書きになり納めてください。

院号居士・院号大姉	二万円
居士・大姉	一万五千元
信士・信女	八千元
仏さまのない檀家	八千元

* 法事について *

ご法事の日程の候補をお知らせ下さい。こちらで日時等を調整いたします。

◎ご法事のお布施

院号居士・院号大姉	五万円
居士・大姉	四万円
信士・信女	三万円
塔婆料(一本)	三千元

◎寺にてご法事をされる方は、茶湯料をお願いいたします。

* お墓参り *

亡きご両親、祖父母をとおしたご先祖さまへのお墓参りは、《日本の仏教》が伝統として築いてきた文化です。先人の徳を偲び感謝の心をあらわす清らかな行いです。ご縁のある皆さまと共に墓参りを勤めましょう。その誠意『功德』は必ずご家庭へ廻ってまいります。

◎お墓参りでは、以下の点にご留意ください。

- ・ 本堂のご本尊さまへのご挨拶、『礼拝』をお忘れなく。
 - ・ 生花以外の供物は絶対にお供えしないでください。カラス等に荒らされ、周囲の墓地の方に迷惑がかかります。
 - ・ 煙草や缶などの燃え残り物は必ずお持ち帰りください。
- 以上、ご協力お願いいたします。

* 普門寺墓苑 *

昨年の春に新区画(小さい区画)の墓所を造成したところ、多くの皆さまにご好評いただきました。

まだまだお分けすることが出来る区画がございます。親族や知人の方で墓地をお探しの方がいらっしゃいましたらお気軽にご相談してください。

Aタイプ 58万円
Bタイプ 86万円
(永代使用料・基礎工事・墓石外柵・彫刻代含む)

《奉納》

永代供養墓前	石香呂	加藤 勉
永代供養墓内	仏具一式	八木 千恵子
植樹・庭園整備代		串田 ケイ
住職晋山式用七条袈裟		三部 梅野

《灯明料・茶湯料》

(七万円)	田口 英昭
(五万円)	肥後 重隆 ・ 安西 貞子
(参万円)	高麗 誠・西出 美代・後藤 七朗

安西 京子・八木 昌子・安西八ナ子
高麗 郁夫・周東 良次・山口 昭
塩野 徹

その他、多くの皆さまより浄財を頂戴しました。誠にありがとうございました。この浄財は、今後の参拝環境や境内の景観などを整える為に充てさせていただきます。

これからも檀信徒の皆さまにとって

『安らかなる祈りの寺』となるよう精進してまいります。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。